

私たちの手で、三宅島にもっと緑を!

特集

『三宅島緑化ボランティア活動』

『三宅島緑化ボランティア活動』は、2000年の三宅島噴火後、本土に避難していた三宅高校の生徒・教員と都立園芸高校との交流が始まったのをきっかけに、平成17年度から始まりました。噴火で失われた三宅島の緑を増やそうと、園芸高校の生徒が2泊3日の日程で、植林・植栽・野菜の植え付け等の様々な活動に取り組むものです。今回からは、このプロジェクトに参加した他の農業系の高校の生徒や大学生も参加することになりました。

島の人と一緒に、タマネギの植え付け

今回は、園芸高校から36名、瑞穂農芸高校、農産高校、農芸高校から計16名の高校生、武蔵工業大学、日本大学から22名の大学生、その他大学教授や教員、NPO関係者等、総勢100名が参加しました。島ではグループに分かれ、園芸高校で栽培した、ピオラ4千鉢を三宅小学校中学校・三宅高校花壇へ、タマネギの苗3万本は島の方と一緒に各農家の畑に植えました。



校庭に植えられたピオラ

各グループともリーダーの高校生を中心に、とても熱心に作業に取り組んでいました。島民の方々からも「本当にありがたい」と感謝の声を数多くいただきました。終了後の反省会も高校生の運営によって進められ、自分自身の活動に対しての振り返り、次回へ向けての課題など、活発な意見交換がなされました。また、2日目の夜に小学校の体育館で行われた島民の方との交流会では、多くの高校生が参加し、溶岩鉢作りにチャレンジしたり、お土産を買ったりして、交流を深めていました。参加した高校生・大学生にとっては、多くの人とかかわる中で、新しい世界に触れ、自分自身のものの考え方や視野が広がった、本当に貴重な体験となりました。

参加できない生徒の思いも一緒に!

「私たちは、今回参加できませんが、どうか、私たちの分まで頑張ってください!」

都立園芸高校で行われた事前研修会での、3年生から下級生に向けた言葉です。進路の準備等で今回は参加できないにもかかわらず、多くの3年生が出席し、励ましの言葉を次々にかけてくれました。下級生はそれを真剣な顔で受け止めていました。皆の心が一つになっていることを実感しました。



一本ずつ丁寧に植えます

参加した高校生・大学生の感想を御紹介します。

(園芸高校2年生)

「私は今回中学校班のリーダーとして参加しました。リーダーは初めての経験だったので、緊張することや、うまくまとめられないこともありましたが、自分を成長させるいい機会になったと思います。中学校では花壇にピオラを植える作業を行いました。予想以上に土は固く、植える穴を開けるだけでも、かなり苦労しましたが、みんなで協力し、きれいな花壇を作ることができました。大変なこともありました、中学校の方に喜んでいただけてとてもうれしく思いました。ただ、残念なのは作業するのが精一杯で、他校やNPOの方、三宅島の方々と交流があまりできなかったことです。ぜひ、今回の三宅島プロジェクトにも参加し、今度はいろいろな人と交流を深めていけたらと思います。」



反省会の様子

(大学生)

「参加した皆さんがとてもフレンドリーに接してくれ、快く交流の輪を広げられた点がとてもよかったです。世代を超え皆がお互いに協力できたことは、非常に大切だと感じた。そして三宅島に住む農家の方たちが温かく迎えてくれて親切にしてくださいました。感動すると同時に、火山活動の盛んなこの三宅島で生きるたくましさに感銘を受けた。今回のこの活動が大変意義のあるものになり、お世話になった方々に心から感謝しています。ありがとうございました!」



交流会で溶岩鉢に挑戦

次回の活動もぜひ参加したい。世代、年齢を超えて、たくさんの方と交流でき、実体験や作業を通して得るものもあります。火山活動によって色々なことを学ぶことのできるこの三宅島での活動は、普段体験することのない大変貴重なものであると思います。この活動に参加することによって、自分が感じたことを多くの人に伝えていきたいです。」

NPOを中心に、都立高校、大学、企業、行政など多様な団体が連携

この活動は、NPO法人「園芸アグリセンター」が中心となり、園芸高校や三宅高校、大学、企業、さらに東京都地域教育力再生プラン運営協議会(事務局:東京都教育庁生涯学習スポーツ部社会教育課内)と連携し、実施されています。様々な立場の団体が、それぞれの役割をしっかりとこなすとともに、お互いの立場を尊重し、協力体制を作り上げることで、この大きなプロジェクトが出来上がったのです。

NPO法人「園芸アグリセンター」

理事長の宗村秀夫さんにお話を伺いました。

「この活動を通して感じるのは、一人の力は小さくても、大勢の参加を得ることによって大きな力になるということです。そして、将来の日本を背負う、高校生や大学生の若者たちがこうした地道な行動をして、汗を流している姿を見ることで、私たちが忘れていたものと呼び戻してくれるということです。参加した高校生、大学生は本当に熱心に取り組んでくれました。特にリーダーとなった高校生は自覚と責任をもって取り組み、それを見ていた他の生徒からは、反省会で、「次は、自分もリーダーとして頑張りたい」という感想を聞くことができました。各学年が強い信頼関係で結ばれているのは素晴らしいことです。この子たちの5年後、10年後が本当に楽しみです。この活動に当たっては、園芸高校の理解と協力をいただいたことが本当に大きいです。小川校長先生をはじめとする、園芸高校の皆さんに感謝しています。」



三宅島の人たちは現在も、大変厳しい条件の中で生活しています。樹木が元どおりに回復するまでには、100年以上の活動が必要であるとも言われています。それだけに、このような息の長い活動が、これからも続くとともに、一人でも多くの若者たちが、このような体験を通して、人間として大きく成長していくことを期待します。

NPO法人「園芸アグリセンター」(平成16年1月にNPO法人として認定)

三宅島に緑を取り戻そうと、都立園芸高校の卒業生たちが中心となり、植林作業などを進めるNPO法人を結成。三宅島の緑化及び災害復興支援の他にも、学校や公園の清掃活動などの社会教育推進事業、海外からの視察団との交流会等の国際理解事業、テニス等を対象にした技術講習会、大会等の開催を通じた子どもの育成支援事業等、幅広い活動に取り組んでいる。